

本時の振り返り

1 第1学年『ひきざん』(2/9)

2 本時の概要

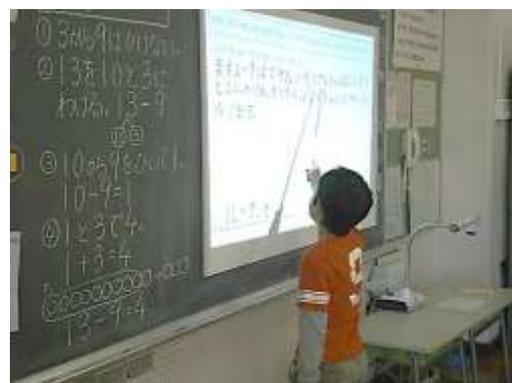
繰り下がりのある減法「 $13-9$ 」で、被減数を分解して計算する方法（減加法）を考え、理解する。

前時に、一人一人が考えた「 $13-9$ 」の計算の仕方を集団検討し、減加法は既習の学習内容「13を10と3に分ける」「 $10-9=1$ 」「 $1+3=4$ 」と考えていることを知り、図や言葉や式を用いてまとめられるようにする。「 $12-9$ 」の当てはめ問題を行うことで、理解を確かなものとする。

3 実践の振り返り

(1) 思考整理を助ける意図的指名と板書の熟考

本時は、児童から出ると予想した「数えひき」「減加法」「減減法」を取り上げて集団検討を行い、減加法を使うよさに気付かせたいと考えていた。前時にかかせた考えを分析し、取り上げたいキーワードが出やすい順に指名する予定だったが、発言に躊躇した児童が続いたことで、意図とずれる発表の順序となった。代わりに発表する児童を募る、教師が代わりに言うなどの工夫が必要である。



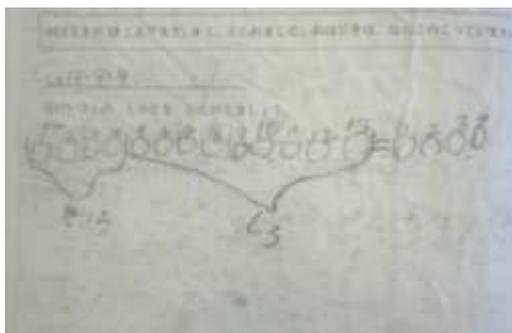
発表した考えを、板書を使って整理する際も、「数えひき」「減加法」「減減法」それぞれが一目でわかるように分類されていれば、同じ考え方なのか違うのかを考えやすかった。ICTを活用するためにスクリーンを使用したがる、その分黒板が使えなくなるという短所もある。本時は、そのため無理のある使い方になっていた。1時間の授業の中で、何をどのようにしてICTの活用をするか、板書に残したいかを熟考し、計画をすべきであった。

(2) ブロックと図の活用

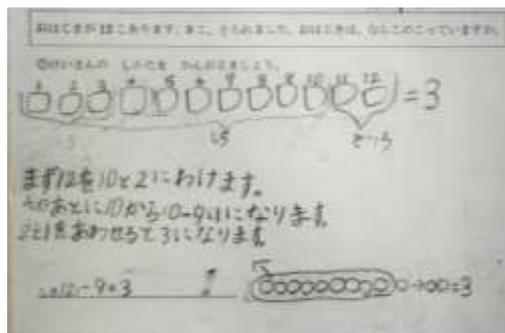
友達の発表を聞き、同じようにブロックを動かしたことで、13を10と3に分ける、10のまとまりから9をひくことよさを実感できるようにした。取り上げる考えの精査、教師のブロックの動かし方に、減加法に絞るべきだったという課題は残ったものの、前時では、数えひきの考えだった児童が、当てはめ問題の際に減加法のブロックの動かし方で考える姿が見られた。ブロックを動かす、図に表して、言葉や式で説明する活動を繰り返し、計算の仕方を考えたり説明したりする表現方法をしっかりと身に付けさせていきたい。



(☆児童の変容) 前時 1/9: 数えひき



本時 2/9 (当てはめ問題): 減加法



4 協議内容

よかった点

- ・友達が発表したブロックの動かし方を全員でやることで、友達の考えを理解しやすかった。
- ・自分の考えをしっかりと文や図でまとめられる児童が多くいた。
- ・順序よく説明する児童、既習をもとに考える児童、学習習慣が身に付いている。
- ・ICTを使った視覚に訴える取り組みが良かった。
- ・全員考えをもった中で検討していたので、より関心をもって友達の発表を聞いた。
- ・考えが一つ出るときに振り返りながら進むことで定着と思考の深まりをねらっていた。

改善点

- ・情景図を見せ、問題場面を想起させると、ブロックが意味をもった。
- ・指名の順番は、意図的に行うべきだった。(同じ考えでまとめる、発言を躊躇した児童の考えを教師が代わりに言うなどの工夫)
- ・「入れる」「たす」「合わせる」など言葉の違いと、考え方の違いを理解させるのが難しかった。
- ・一人一人の活動が少なかった。
- ・ノートにかかせる量、かかせ方、まとめ文の順は適切だったか。
- ・当てはめ問題で、本時のねらいがどのくらいの児童が達成できたか。

5 指導講評 講師: 小島 宏 先生

- ・児童の発表が活発になる指導の工夫をすることが必要である。のびのびとした発言を許すこと。
- ・児童の発言を最大限に利用し、教師が説明しすぎない。補足に留める。
- ・ねらいに即した集団検討のあり方を考えることは重要。本時では「数えひき」「減減法」について取り上げすぎていた。「数えひき」を2通り取り上げる必要はなく、ブロックを動かすことも不要。「減減法」を覚えておくようにという教師の発言も必要なかった。
- ・指導に関する一つ一つの言葉を大切に扱う。「10から9をひく」が正しく、「13から9をひく」というような誤り、言葉のミスに気を付ける。
- ・「どちらがわかりやすく簡単か」という発問は難しい。実際に児童にブロックを動かして体験させるのが有効だった。
- ・学習のまとめの際に、児童が書いていたものを取り上げたのはよかった。ノートのかかせ方は、簡潔にするとよい。
- ・当てはめ問題で発表した児童の選び方にも気を付ける。学習のまとめの典型の児童を選ぶこと。
- ・ペアやグループでの学び合いもしていくとよい。